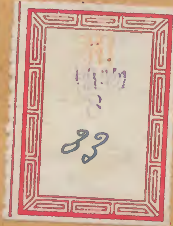


# 本草圖譜

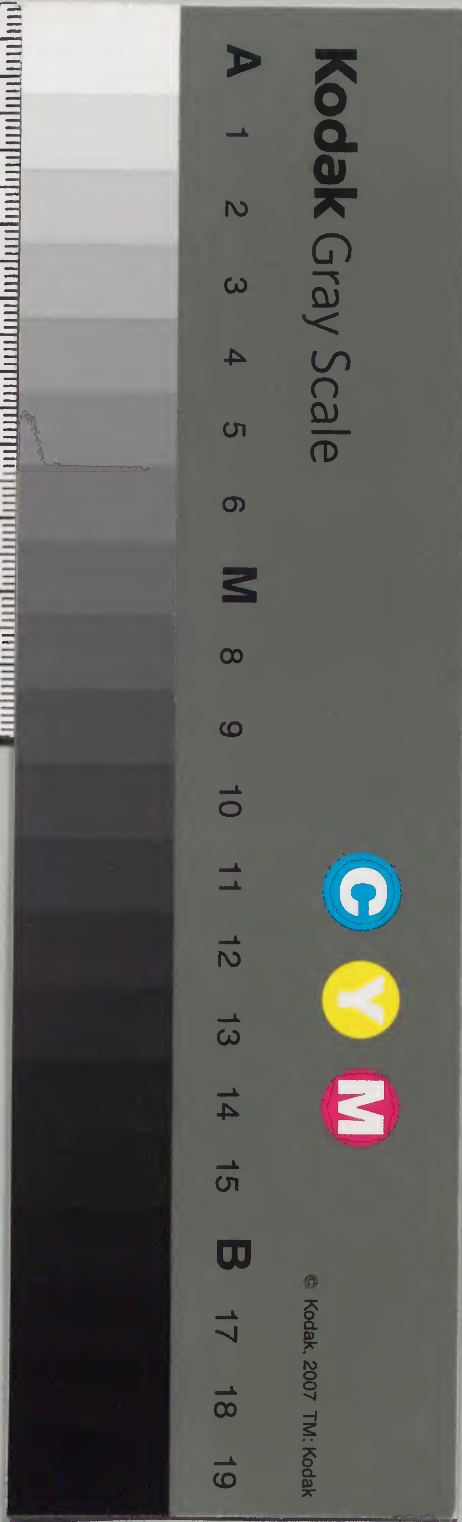
卷之七十一

和書門			
三	六	六	類
函	架	冊	號
四	五	冊	架

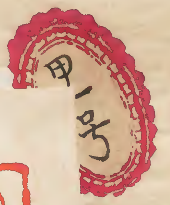
內閣文庫			
五	六	函	架
三	二	冊	架
三	六	六	類
四	五	冊	架



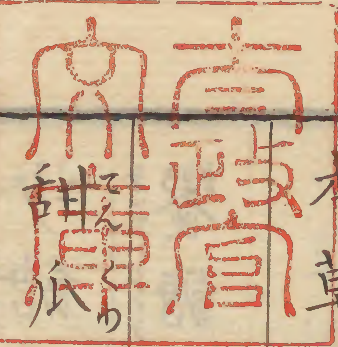
內閣文庫		
番號	和	366
冊數	45 ( 33 )	
函號	196	189







本草圖譜卷之七拾一目録



果部 蒞類

不そぬ

二 一種

三

一種

一種

きんまくわ

一種

きんまくわ

四

白團はくだん

集つるのこ

六

黄瓜わうか

集解

ひわうり

瓜蒂くわてい

ねづきまくわ

七

西瓜せいひやくわ

すいやくわ

一種

一種

しろすいやくわ

本草綱目 卷之七拾一目録



葡萄

ふど

十

水晶葡萄

釋名和漢通名

瑣々葡萄

解集

十一

一種

物印忙の図

十三

菓

ぬまび

一種

のぶど

十四

獼猴桃

しらくち

十五 一種

小葉の物

十七

甘蔗

さとうきび

崑崙蔗

集 解 びらさきざとう

こりざとう

沙糖

石蜜

饗糖

解集

あろへい

刺蜜

二十

本草圖譜 卷之七拾一

果部 菰類

甜瓜

ほろち和名 鈔

まくわうり京 江戸

あまうり

あわうり雲列 九州

てうり奥州 仙臺

ちんめう佐 渡

あしむい朝 鮮

めるいぬん蘭

兔 延 名引 本草和名 延 神 仙 服 餌 方

東都 岩崎 常正 著  
男 岩崎 信正 校  
門人 小山 廣孝 校







甜瓜

まくわうり  
ほんやま





一種

全躰<sup>ぎた</sup>白色にして大さ前條の如きもの

一種

形ほんやまの如くよして皮黄色肌<sup>はだ</sup>へ細<sup>こまか</sup>し肉ハ青黄色なり

一種

形状ほんやまの如くよして皮白色よ黄色の縦道<sup>たてまじ</sup>あり肉の  
いろ同じ以上三種共ニ上品よして味<sup>あじ</sup>い甘美<sup>あま</sup>あり

一種

ぎんまくわ

形大よしてなるつけの如く緑<sup>きどり</sup>の細道あり味いまくわらり  
よ似たり



本草綱目 卷之二十一



一種



一種 ぎんまくわ

秋ほんやまより大よして皮厚く縦に裂積ありて木皮の如く肉の色淡緑にして硬く味ひ劣るされども此の多く出に京都谷川うりの類なり



ぎんまくわ



ぎんまくわ



白團

解集

つるのこ江

たまごうり

ぼんでんうり京

花葉とも甜瓜の如く卵の如く皮純白色肉淡黄緑色香味ハ芳れり

黄

瓜

解集

いめうり水若

金

瓜

廣東新語 松江府志

花葉ともよつるのこよ似たり瓜ハ形圓くして鈴の如く少し扁く皮淡黄色味ハ甘からず淡味なり



いめうり



つるのこ





瓜蒂

ぬづみまくゆ

うりのへた

ぬづみうり 越前

つるうり 越後地藏堂方言

みのうり 賀加

甜瓜てんかの一種越前方言ぬづみうりの蒂を採り用ゆべし田村  
瓜云瓜蒂ハ越前足羽郡福井の産を好よしとす其瓜緑色きよくにして  
黒みあり軟くびれて生る瓜の味あじハ甚おほく甜あまく蒂たの味あじハ甚おほく  
じ吐薬とやくと名もべしと云々蘇頌そうじゆ宗奭そうせき等ら一いち概がい子こ甜瓜てんか蒂たを用る  
と云りよりて蘭山らんざんハ甜瓜てんかの赤熟せきじやくの蒂たハ味あじハ苦くきゆへ採て  
薬用やくようすといども瓜蒂かたの註しゆハ香甜瓜せんてんか又菜さいと名すべき蒂たハ  
用ゆへからむとあれバぬづみうりの蒂たを用ゆるを勝かちれり  
と名す



本草綱目 卷之十一

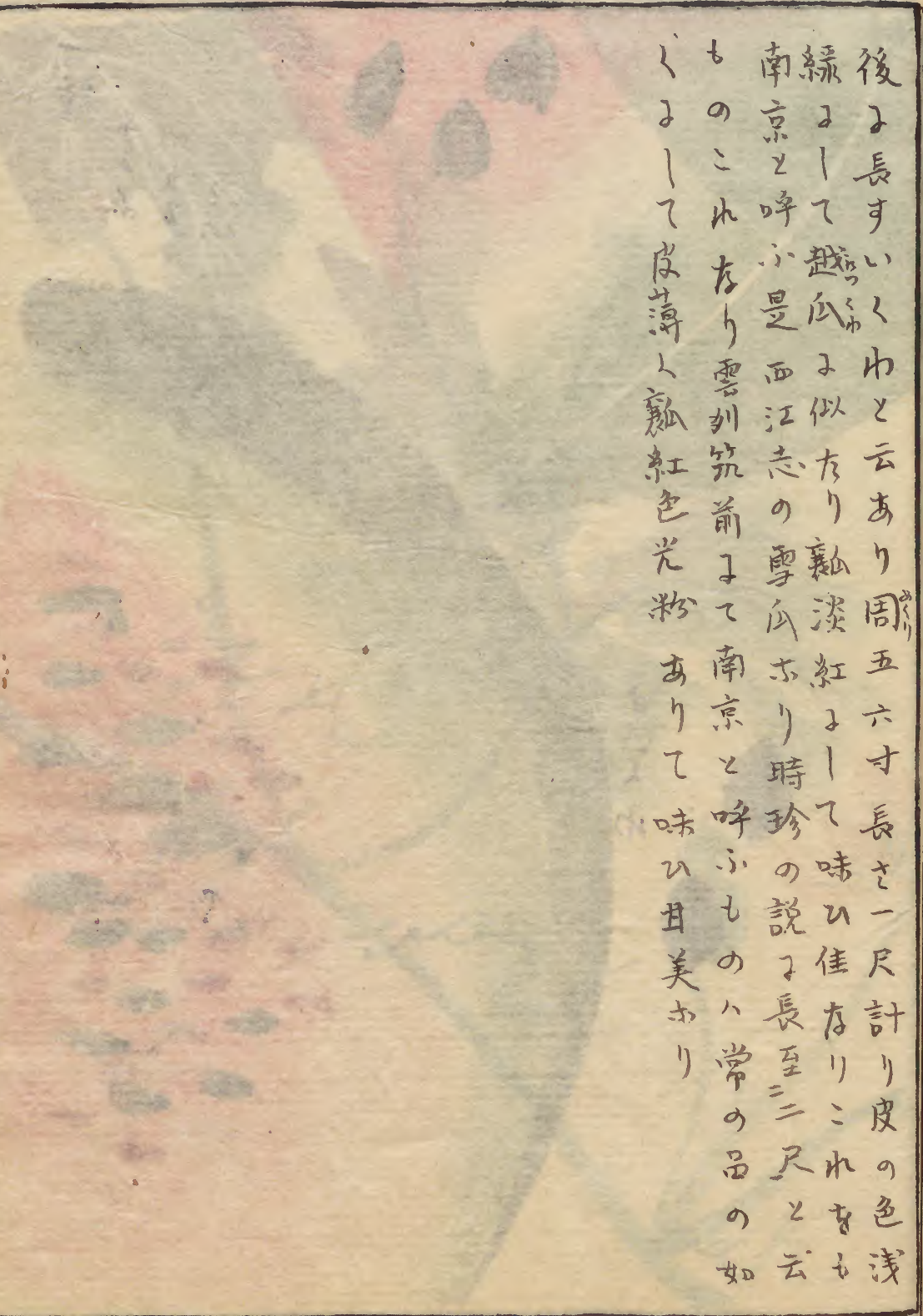


西瓜

すいぐわ さいりり 大坂  
 天生白虎湯 發明 西瓜  
 青登瓜 圃史 汝南  
 白虎湯 遵生 八牋

貝原氏の説日本僧義堂西瓜の詩あり按するに此種寛  
 永年中祈て異邦より來る義堂の頃西瓜いまだ渡さ何もの  
 を云歟詳ならざし古ありて中絶近年又來れるや  
 いぶか一京都の寛文延寶の間始て西瓜の種を裁に今  
 ハ多しといへり今西瓜種類多し四月子を下して生葉ハ  
 野西瓜苗に似て大亦黃蜀葵葉に似て刻缺多し花ハ冬瓜  
 に似たり六月瓜熟き皮深緑色肉白色瓢紅赤色子ハ黒  
 色なり此物桑常の西瓜なり一種子黒斑ある物一種城川木  
 津の皮黄しして瓢赤きものあり木津西瓜と云勢列ハ  
 皮瓢とも黄色のものありといへり此物下品なり一種皮  
 瓢黄色しして子ハ赤きをあかほうと云上品と亦す一種筑

後子長すいくわと云あり周五六寸長さ一尺計り皮の色浅  
 緑にして越瓜に似たり瓢淡紅にして味佳なりこれをも  
 南京と呼ふ是西江志の厚瓜ホリ時珍の説長至三尺と云  
 ものこれなり雲州筑前にて南京と呼ふものハ常の品の如  
 くよして皮薄く瓢紅色光粉ありて味ハ甘美あり



本草綱目卷之十一



一種

子黒  
班ある  
もの



すいんじゆ





一種

白すい  
くわ

月明瓜

本草原始

近年此物出つ皮  
青白瓤子ともよ  
白色味ひ甘し



葡萄

ぶどう



葡萄

はび ぶとう はびかづら をははひ

はつ 蝦 ぶらいう 龍須 紺珠 僧眼

鍍金 水綿 同共上 亭 挑花鏡

官服にび漆と云は葡萄の熟したるを漆をいふ葡萄  
 甲州にて作て江戸並に外へ出を子を下して生し又三四  
 月蔓を地と挿して活を葉も地錦に似て大に藤蔓大なるも  
 六寸周を冬枯れを棚を作りて載を春月葉の間子穂を生  
 じ小粒淡黄白花を開花房をなし子を結ぶ初は緑色熟をれ  
 じ黒色味は甘美ありこれ黒葡萄と云これ釋名の紫葡萄  
 子して正字通の黒水晶群芳譜の賜紫葡萄に尤も此種琉球  
 名産あり一種實の色も紫色にして長みあり



本草綱目 卷之七十一 十二



一種



荷蘭の書物印に葉の刻  
缺多く子熟して黄色なる  
ものあり是涼爽の説に  
成式言葡萄有黄白黒三種  
として其黄なるもの是なり



本草綱目卷之七十一



水晶葡萄 水日晶葡萄 和名 漢通名

葉は紫葡萄の如くよして刻々深く子熟して淡緑色透明の



葡萄 蔓 莫 いぬ江び 江びつる くらぶどう



瓊々葡萄ほとう 集解

近頃白川侯園中  
の寶の大き大豆  
ほどありて淡紫  
色核ふくめて味  
み甘きものあり  
是奇品なり此物  
時珍の説大如  
五味子而無核と  
云もの當れり

水白葡萄 味酸



葡萄かう 正字 通  
櫻菓をい 菓い 通 雅

處々山野に自生あり藤蔓葡萄とうまんに似たり葉も又同一五尖或  
ハ三尖あり葉の背黄褐毛あり夏月穂をふいて花を開き実  
を結ぶ形葡萄に似て稍小く熟して黒色味ひ酸し奥州にて  
は此実を以て葡萄酒に作る此蔓の心こゝに虫を生を呼ぶかま  
江びのむしをいふ孔雀の餌にとホサ一種野刈日光山及ひ信  
州木曾山中にあり藤蔓とうまんぶどうの如く葉の形絲瓜まの葉に似  
て厚く北月に黄赤色の毛あり房をふいて小花を開き実を結  
ぶ菓實に似て紫黒色なり





一種

蛇<sup>ジャ</sup>葡萄<sup>ブドウ</sup>

救荒本草

葉の形前子同く  
一て薄く毛亦一其  
實も同く一て碧<sup>アヲ</sup>  
紫<sup>ムラサキ</sup>紅<sup>ベニ</sup>相雜る枯る  
時は皆黒色となる





本草綱目 卷之二十一 雜木類 桃



獮<sup>み</sup>  
猴<sup>から</sup>  
桃<sup>と</sup>

しらくて  
和名鈔野  
列奥列



本草綱目 卷之二十一 雜木類 桃

十七



獼猴桃

志らるる州 和名鈔野 奥州

に似ゆう前松

羊桃 有文

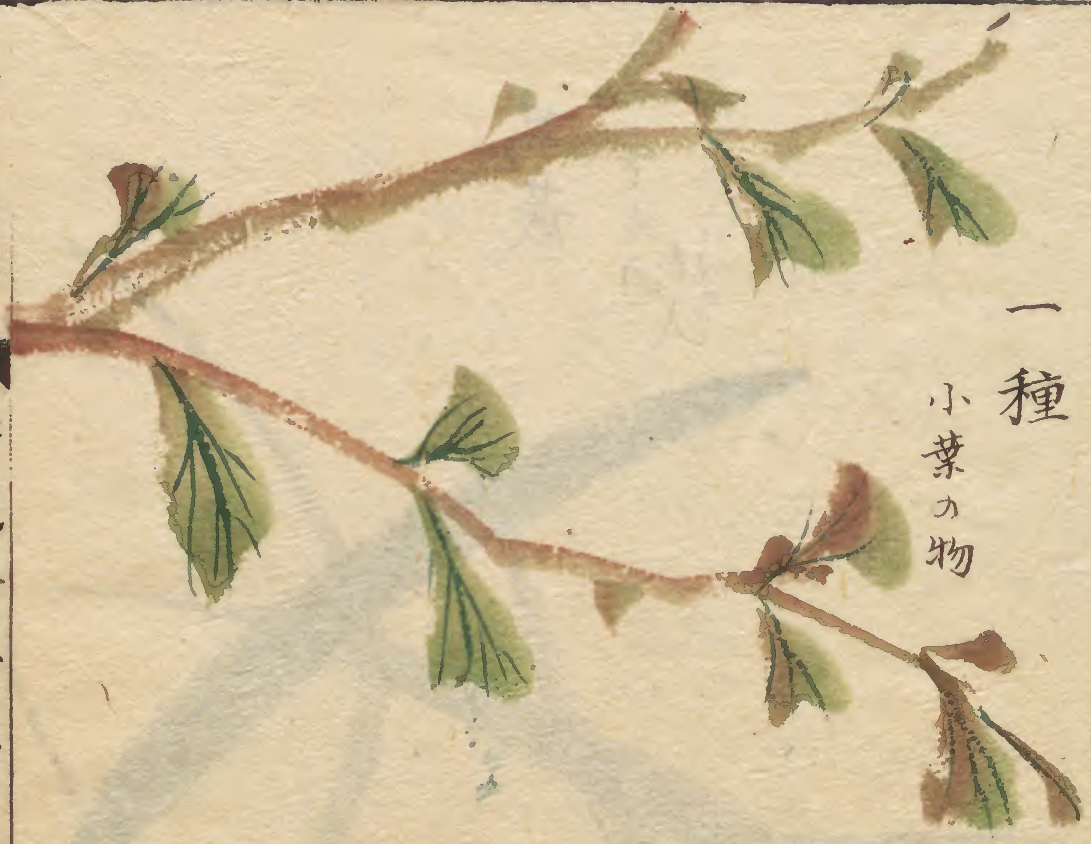
世るふし

也ふ指志州

奥州野州信州山中其外諸國とて其の行り藤蔓四時枯れ其葉  
 茂し大なる物也圍一二尺及ぶ春月喬蔓より芽を生じ嫩  
 芽も紅色あり葉も梨に似て長之周囲は細く鋸居り葉の  
 茎紅色あり夏月枝の間に穂をふして花を開き形木天蓼に  
 似て淡黄色後實を結ぶ莖長きして下垂を冬に至ると熟  
 せ緑色にして褐色の細点有り梨の肌如し熟せば小く軟か  
 りして甜あり味ひよし実の内は細子あり生し易し

一種

小葉の物



藤蔓七四時とて枯れ春  
 月宿蔓より芽を生じ葉を  
 前条に似て至て小く葉の  
 周りに刺の如く鋸居り  
 花実共に前条に似て至て  
 少し



甘蔗

きとう  
てん





沙糖

砂糖

和漢通名ワカンツウメイとして教種キョウシュ有り時珍シチン説と云く黒きと云く天工  
 開物カイブツ子紅糖コウカウと云ト道生ドウセイ八牋ハセツ子點砂糖テンサトウと云ト汝南ニョナン圖史トウシ子點糖テンカウと  
 云ト製法セイホフも天工開物テウキカイブツ並ナリに砂糖サトウ製作セイゾク記キ平賀ヘイガの作物サクワツ類ルイ品ヒン際サヘに詳シユ  
 あり琉球リウキウ唐タウより持来チライり薩州サツシュウよりト岷ミンを白砂糖ハクサトウ由ユ舶来ハクライ有り  
 和製ワセイ有り種類シュルイ多タし大白オウハク才サイ聞書ブンショより上白ウジヤクと云ト精糖セイカウといふ廣東カンヌン  
 新語シンゴ子洋糖ヤウカウといふ中白チュウハク才サイ聞書ブンショ子漢名カンメイ中白チュウハクと云ト宮糖ミヤカウと云ト下  
 品ヒンハ聞書ブンショ子下白ゲハクと云ト奮尾フンビといふ廣東カンヌン新語シンゴ子漢尾カンビといひり  
 舶来ハクライの物モノ子教高キョウカウ有り南京ナンキョウを上品ウジヤクとも暹羅シヨロ才サイ紅黄色コウワウシキあり多  
 くと潤ジュンひ有り純白ジュンハクあり赤毛セウモウ有り末マツ白ハクの才サイ乾カンて潤ジュンを  
 味ミ淡澀タンサクあり

石蜜

製法セイホフ天工開物テウキカイブツ子詳シユあり上品ウジヤクの白砂糖ハクサトウを煎ケンじ雞卵キダンの白ハクを  
 入イレ滓シ去クるて青竹セイシクを一才イチサイ餘ヨリ子切キレて縫ヌイ子割ワケり煎ケンけぬ才サイ也

投ナゲて置き一宿イツシュクを経ケルれど冰糖ヒョウカウとあるといひり此コノおほりきと云トを末マツたな  
 ををヲおほりヲをヲあしと云ト

糖

糖

解トキ菓カ 白ハク 一イチ 以ヨリ

此物コノモノ白砂糖ハクサトウを以ヨリて煎ケンじ鉛エンの如ニありあるを器キにて煮ヌり五  
 色イロを以ヨリて採サイ色シキをヲあし木草魚虫モクソウイシム人物ニョウブツ諸物シヨブツの形カタチをヲ作りツクリ昔凶人コノムネノヒト  
 子供コノミョウし又遠トウ日遣ヒウツクる時珍シチンの説セツによ云トり又廣東カンヌン新語シンゴ子也ナリ有り



刺蜜

海んな蜜

和製不詳和蘭の一説は香木類に載る処の塊婁婆香和名の  
里百み又加わくること云木より中人ある採るといへり

和蘭の書物印忙の圖

ふりゆてけをいるは和蘭





本草圖譜卷之七拾二目錄

果部 水果類

蓮藕 <small>れんこう</small>	はちすのぬ	一	蓮實 <small>れんじつ</small>	はちすのみ	四
蓮薏 <small>れんい</small>	はすのみのでゆく	一	石蓮子 <small>せきれんじ</small>	名 糸	六
實生 <small>じつせい</small>		五	蓮花 <small>れんげ</small>	はすのはな	六
一種			一種		八
一種	不忍之物		一種	藤壺蓮	九
一種	蜀紅蓮	拾	一種	雲上蓮	拾一





一種	金光蓮	十二	一種	同
一種	每葉蓮		一種	金光蓮
一種	朝日蓮		一種	同
一種	淨土蓮	十五		

本草圖譜卷之七十二

東都 岩崎常正著  
 男 岩崎信正  
 門人 小山廣孝 校

果部 水果類

蓮れん 藕ぐう

はちまの祢和名 鈔 以事みとぎ藻鑑草 藏玉集  
 つゆたへくは藏玉 集 みづたへく同上 つまおしとぎ  
 つれなきとさ みたへとぎ はちの祢



澤芝 本草和名 引兼名苑

元 正字 通

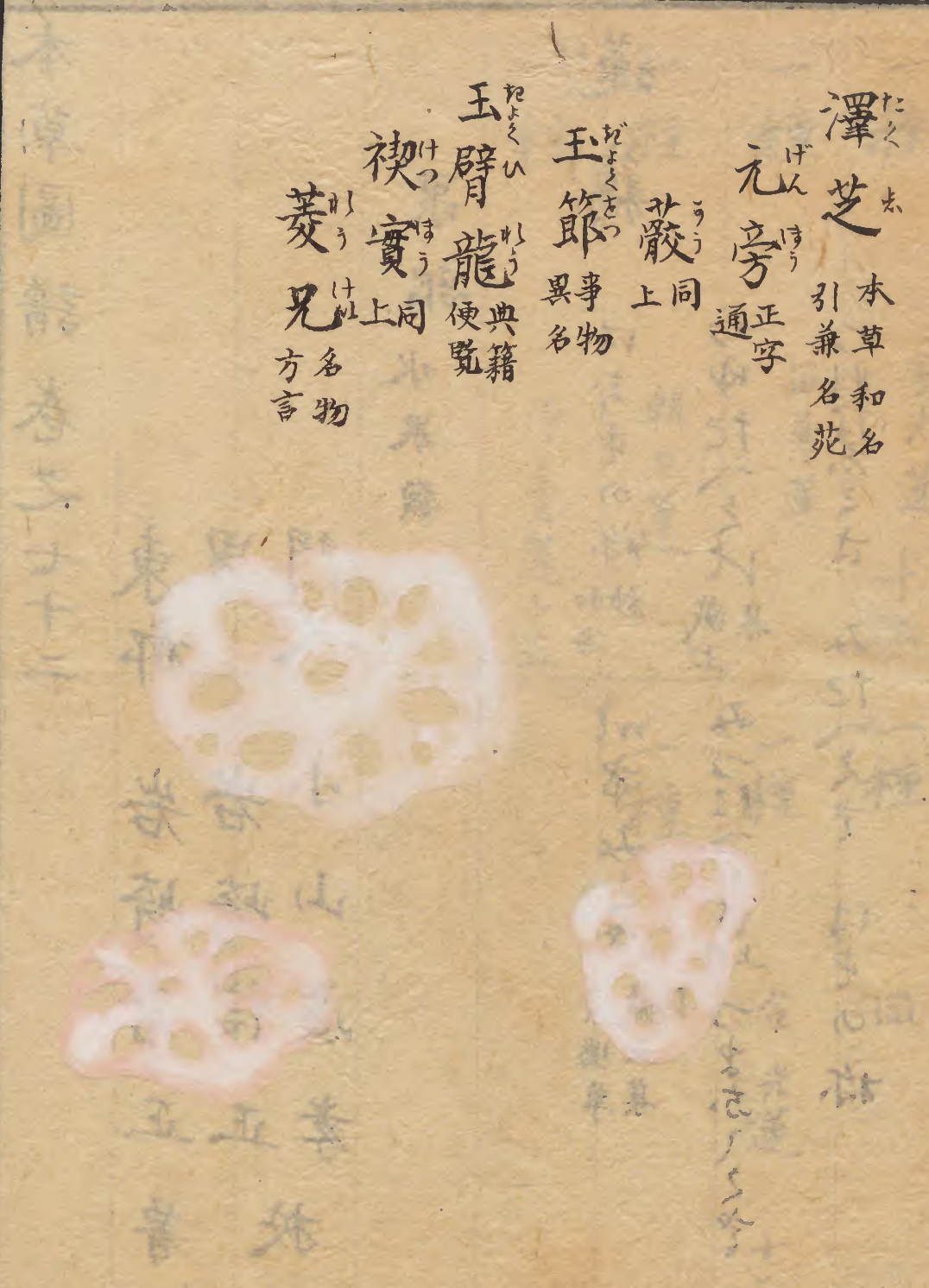
蔽 同上

玉節 事物 異名

玉臂龍 典籍 便覽

襖實 同上

菱兒 名物 方言



大和本草 凡蓮は一物の内用る処

所 各釈名を附く先藕を元と存す

根 より生し秋に至り長さ二三尺中子

節 の生も四時食用子供小花の粉紅の物

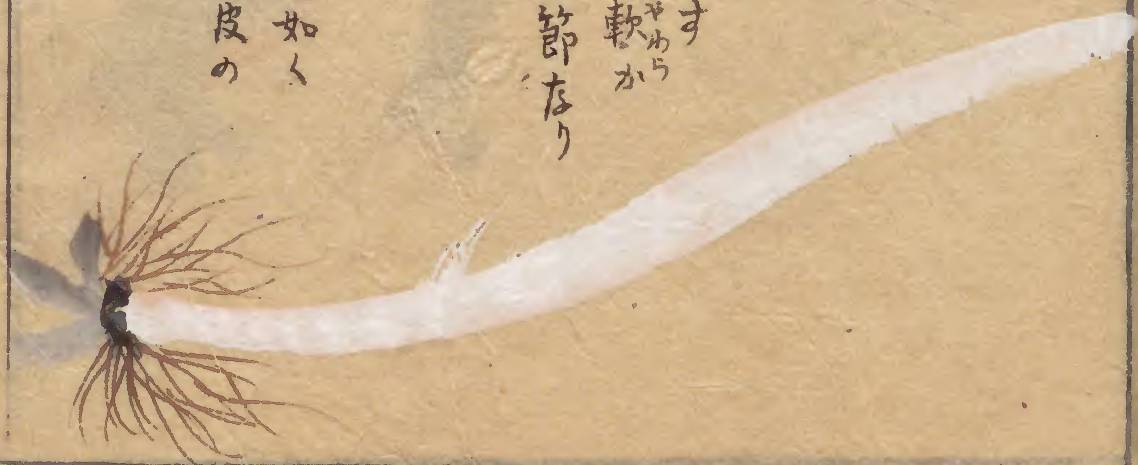
は 根肥大して軟か味良又もちはす

と呼ぶもの食用より上品なり粘りありて軟か

藕 はすのわかぬ

夏月宿根より生ずる嫩芽なり形筆頭の如く

外皮ありて其皮の内より根と葉を生し皮の本節となる竹の如し





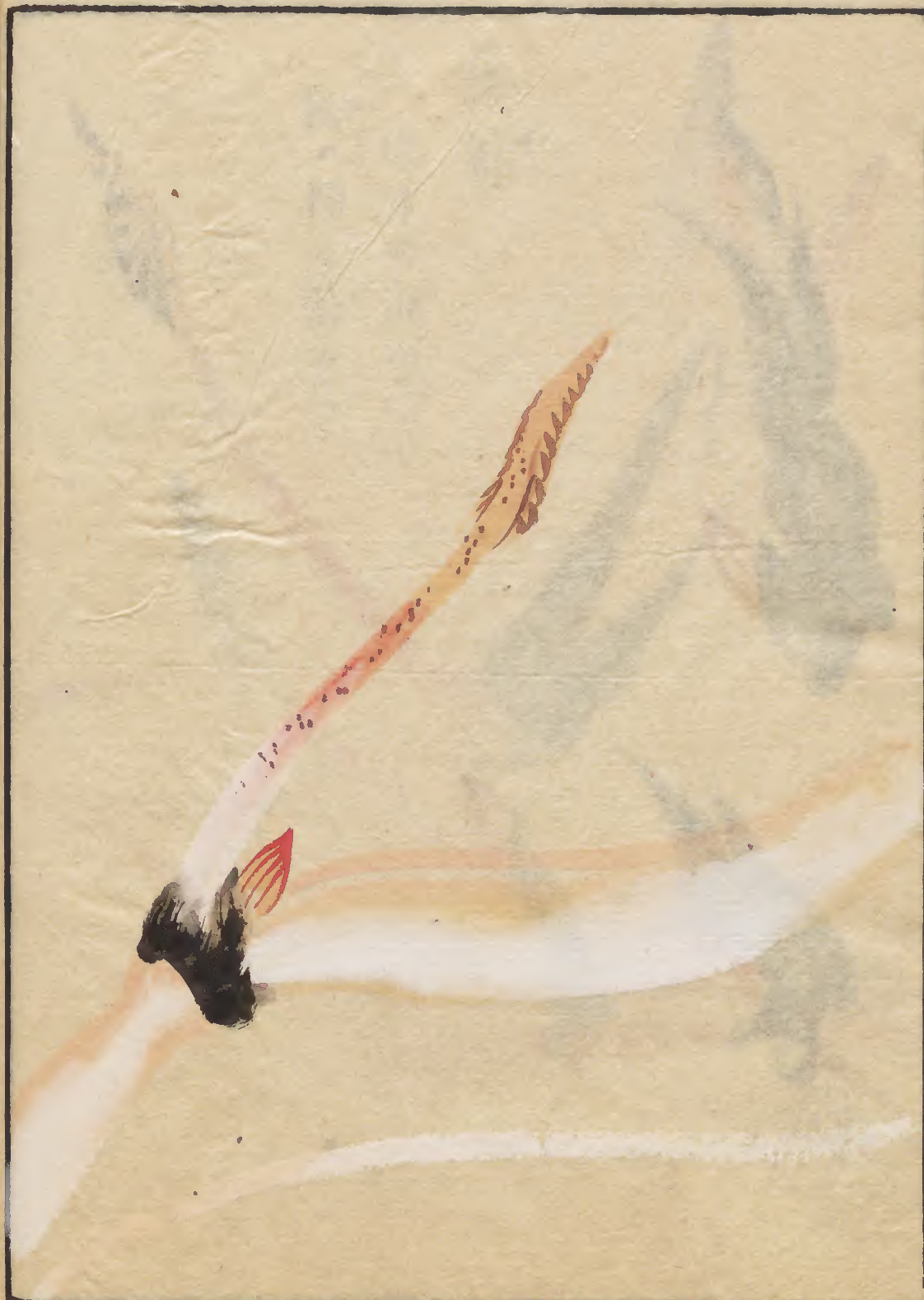


北く 藕じ 節せつ

はすのぬのふし  
根ねの間まの節せつなり







蓮れん  
實ぶつ

はちまの和名  
み

藕はをのみ  
子み  
異名

秋月花後房の中子実を結ぶ  
形楸の實に似て初の色熟  
まれば黒色なる光澤あり  
て其だ破れし其れを破る中子  
仁は白色にして味は甘之淡





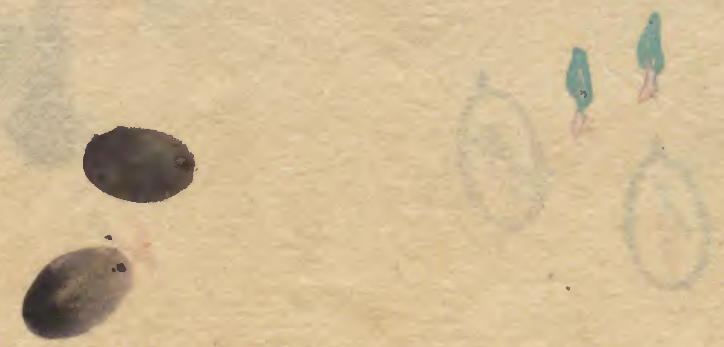
蓮れん 薏め

は花のみのおやくし

蓮の芽をへて仁中より有るの物青  
淡青色を味い苦し

石蓮子せれん 子こ 名な 款か

実の熟して黒色  
よりあり硬地地の  
石云



實生の物にして葉の大  
一寸許り紋脈至て細か  
り蓮實ハ其儘下してハ  
季を經る生ず芽を生し  
さをへまひハ兩端を仁  
子きりてざるほど切也  
金子水を入是ハヤセ也  
必も生ず





蓮花

みづすはふ

はちつはふ

みづのはふ

はさめはふ

禪客 せんかく 名花 譜

静友 せいゆう 上同

水芝 すいし 群芳 譜

水芸 すいげい 上同

玉環 たまわん 潜確 類書

水旦 すいたん 便覽 群芳 譜

水芙蓉 すいふくろう

水宮仙子 すいみやうせんし 上同

水花 すいけ

水花 すいけ 妻元禮田 家五行

初秋藕の節子兩對して莖を生ぜせ一も莖せ一は花あてせ  
花の莖水上より出る二三尺計り細く黒色の点有りてざらつ  
けり掌子処に培養せむゆゆ淡紅の物にして十餘瓣あり  
莖の形大筆頭の如く細長く藪なく直に花弁なり蓮の種類  
多くして數十品に至れり多し図を有る物に白川侯諸國より  
名品を集め別園に大なる瓶を埋瓶のうぢ一品つ培養  
させ玉ひせ花の開く時日臨て画師に命ありて写真をさせ

給ふ処の図なり其圖を寫すべし願ふて図する物多し又同  
好の子志村なる者の寫真を得てこれに加る物あり其各祭  
に記し置り猶自分得る物二三品も共載せり此外傳聞の  
異品これあれば其物其圖を得ざれば其言のみを記し置け  
り輻斬小録に江列益須郷田中村に其田中園中池に産す  
一莖の上より九つの花房ありみちあふて咲小なるハ或ハ七  
つ或ハ三つあり中元頃よりさく萬葉蓮と云と云々又秘傳  
花鏡に品字蓮と云ハ尋常の花の形にして一莖に三花開く  
を云なり此もの本邦に有といへとも未だ目撃せられぬ  
ぞ又肥後の熊本に唐蓮の類三品ありといへり其花の形大  
さ一尺計りにして紅系蓮の如く実の房の大き五寸計り  
至る葉も又大にして傘の如く莖竹の如く刺甚しくして人  
を刺し根の長さ二間余に至り此間節四五を生す圍大  
して八寸計り此根を製して粉となすといへり又長崎唐寺  
に花の形芍薬花に似て紅色外黄金色の如く光りある物  
あり実未だ結ばずといへり此外異品猶ある所見聞せむハ記さるるなり



尋常の品よりて  
所々子培養なま  
との





一種

志村の藏  
同有り花  
の形常の  
品よ同し  
く淡紅存  
り



一種

同上の図  
よして花  
の形常の  
物の如く  
粉紅よ紅  
色を理あ  
り





本草綱目卷之七十一

一種

不忍の池の紅蓮

白川侯蓮譜に載る  
物として花の形常  
の品の如く淡紅色  
なり瓣の肌少し皺  
あり



本草綱目

卷之七十一

九



一種

藤壺蓮

同上の五つして大なり  
紅色の先濃く本より  
淡黄を帯ぶ



+



一種

蜀紅蓮

同上の品として前条不忌池の物より色濃と瓣の肌同し





一種

雲上蓮

同上の品より  
花小く瓣細く先  
尖り淡紅より  
先の方少し色濃  
く房へ黄色を帯  
ぶ



一種

金光蓮

同上の回より花少く瓣  
細く淡紅色瓣の本より帯の  
如き物あり房へ深緑なり



一種

金光蓮

同上の回より  
花瓣上の物  
より少し廣く  
淡黄色上の物  
と同じく  
帯の如き  
物あり  
房淡  
紅色  
あり



本草綱目 卷之二十一 蓮花 十二



一種

每葉蓮

同上の品

子して花

辨細く淡

紅色帯ハ

前糸の物

と同一



一種

金光蓮

同上の品

子して花

辨四みあ

りて淡紅

色房ハ黄

色なり





前の花  
後の図



一種

朝日蓮

同上の品より  
花辨同く  
紅色中より  
先濃紅色  
實の色淡緑  
色花の本葉  
の如きもの  
あり





一種

朝日蓮

同上の如  
くして花  
瓣内々深  
紅色甚美  
なり



一種

淨臺蓮

同上の如  
くして花  
の瓣内々  
淡紅色先  
の方深紅  
なり





